

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 32週 > 咽頭結膜熱、手足口病 患者報告数は減少傾向 / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

< 腸管出血性大腸菌感染症 > 第32週の報告患者総数は144
< 無菌性髄膜炎 > 第32週の報告患者総数は84で、定点当たり報告数は0.18



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 Vero毒素産生性大腸菌 / 手足口病 / ヘルパンギーナ / 無菌性髄膜炎 / 他



速報
P.6-7

セラチアによる院内感染について - 東京都 / セラチアの輸液中での増殖実験



海外感染症情報
P.8-10

コレラの世界状況1999年 各地での感染様式と流行



感染症の話
P.11-14

PRSP(ペニシリン耐性肺炎球菌)
広範囲の抗菌薬に対し耐性を獲得した
「多剤耐性肺炎球菌」としても注目される



読者のコーナー
P.15



グラフ総覧(32週)
P.16-22

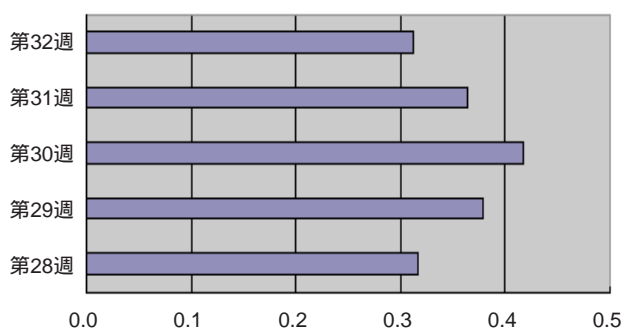


32週のデータ
P.23-30

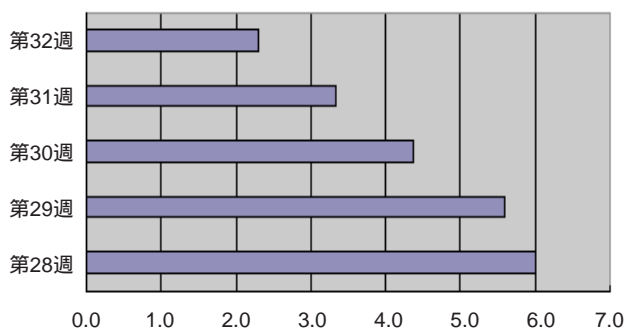
最近の注目疾患-5週間の動き

咽頭結膜熱、流行性角結膜炎は2週続けて前週の定点当たり報告数より減少した。ヘルパンギーナは第28週をピークに減少傾向に転じている。流行性耳下腺炎は定点当たり報告数が前週より減少した。無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は先週と同じであった。

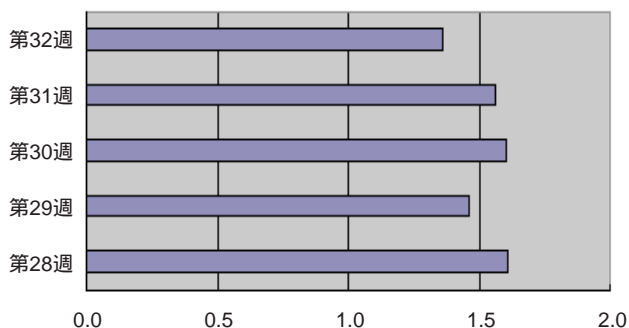
咽頭結膜熱



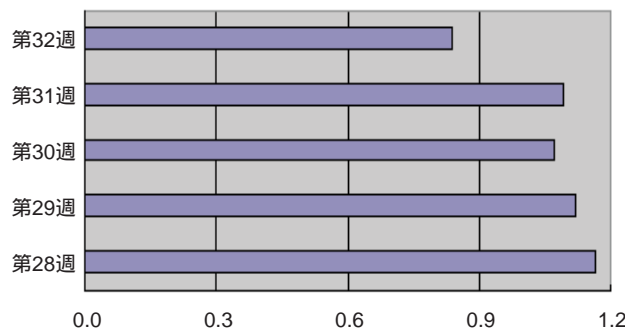
ヘルパンギーナ



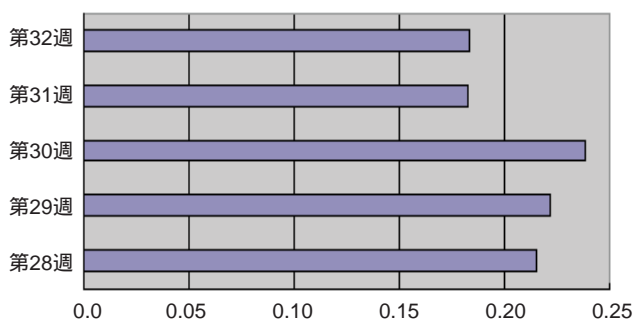
流行性角結膜炎



流行性耳下腺炎



無菌性髄膜炎



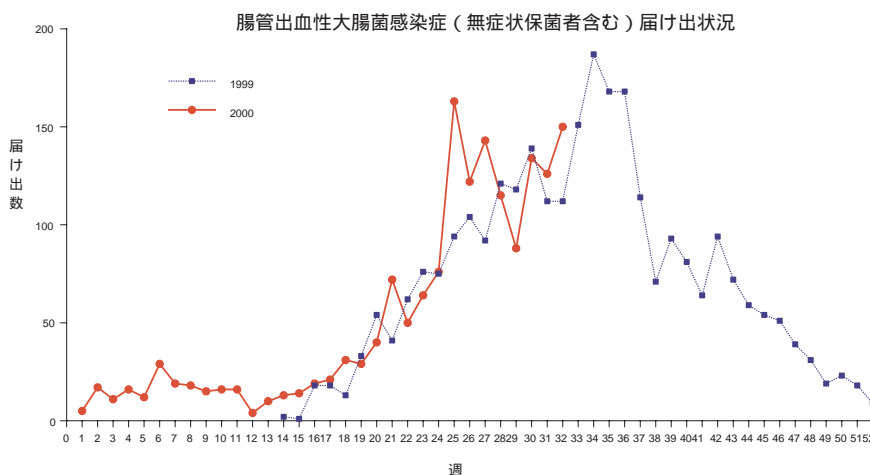
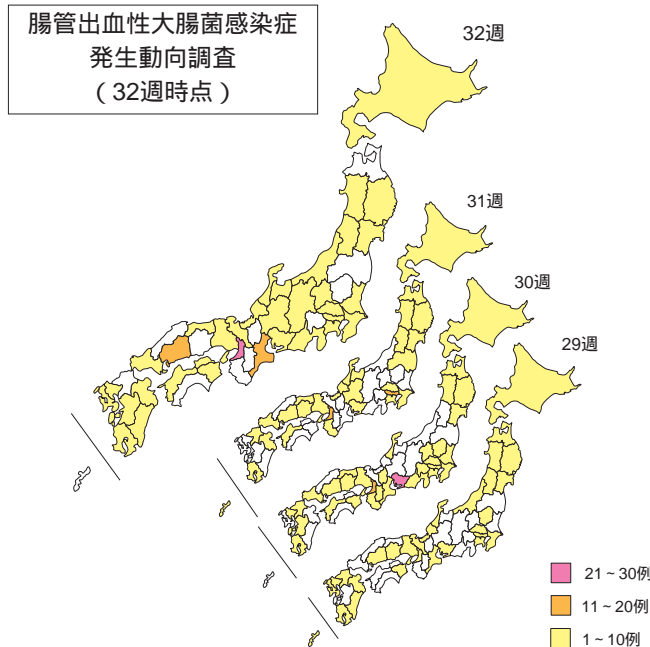
(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症流行状況

2000年第32週(8月7日 ~ 8月13日)の、腸管出血性大腸菌感染症報告総数(無症状病原体保有者含む)は144と多く、大阪府、三重県、広島県などからまとまった数の報告があった(Vero毒素産生性大腸菌O157、O26の検出状況については、5ページ病原体情報参照)。2000年第1週からの累積患者報告数は1,647となり、大阪府、東京都、神奈川県、愛知県、福岡県、兵庫県など大都市を含む都府県で報告数が多い。



無菌性髄膜炎流行状況

無菌性髄膜炎は基幹病院定点からの報告疾患で、その多くはウイルス性髄膜炎であるため、基本的な流行パターンは主流となるエンテロウイルスのそれに従う。すなわち、初夏から上昇し始め、夏から秋にかけて流行が見られる。今年も5月の連休明け頃より報告数が急増しており、第30週の定点当たり報告数0.24が現在のところピークとなっている。

第32週(8月7日 ~ 8月13日)の、全国定点医療機関からの無菌性髄膜炎患者報告総数は84で、定点当たり報告数は0.18であった。

患者の年齢階級別では、9歳以下の小児が全体の79%を占め、20歳以上の成人例は全体の10%程度である。

基幹病院定点からの病原体報告によると、今年第32週までに無菌性髄膜炎から分離されたウイルスで最も多かったのはEV71(91件)、次いでムンプスウイルス(75件)で、3位のエコー16型の9件を大きく上回っている(病原体検出情報事務局に入った地方衛生研究所からの無菌性髄膜炎病原体情報については5ページ病原体情報参照)。



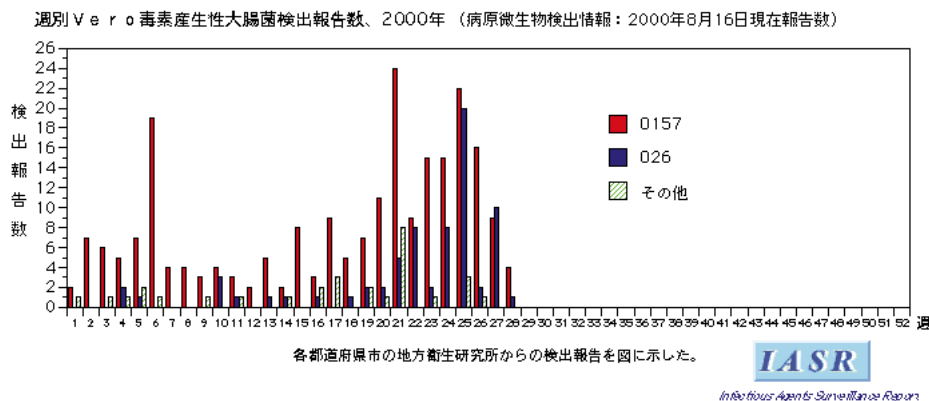
病原体情報

(2000年8月18日現在報告分)

* グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの抜粋です。

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26 2000年

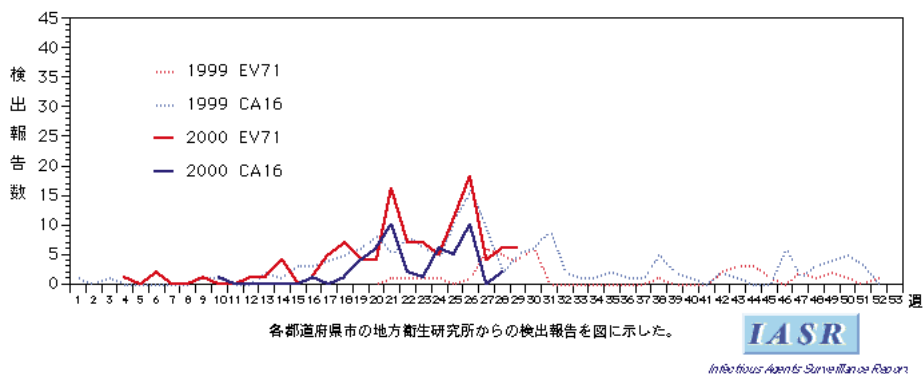
本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が262件、O26が77件である。O157は、大阪府(40) 富山県(17) 広島市(15) 千葉県、愛媛県、福岡市(各14)の順で報告数が多く、第28週以降では福岡市(7) 佐賀県(4)である。O26は、石川県(16) 岩手県(13) 島根県(10) 岩手県(7)からの報告数が多く、第28週以降では岩手県と福岡市各4件の報告である。



手足口病患者から分離されたウイルス 2000年

主にエンテロウイルス71型(EV71)とコクサッキーウイルスA16型(CA16)が分離されている。EV71は99件報告され、愛媛県(35) 熊本県(21) 山形県、神奈川県、北九州市(各7)の順で、九州地方を中心とした西日本で報告が多い。CA16は57件報告され、うち山形県31、栃木県7である。

週別エンテロウイルス71型、コクサッキーA16型分離報告数、年別比較 (1999年、2000年)
(病原微生物検出情報: 2000年8月16日現在報告数)



ヘルパンギーナ患者から分離されたウイルス 2000年

A群コクサッキーウイルス(CA)81件(10型27、4型20、6型19、2型12、9型2、7型1)の分離が報告されている。

無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2000年

エコーウイルス(E)66件(25型14、9型12、11型8、3型7、6型5、18型5、30型4、4型1) B群コクサッキーウイルス(CB)41件(5型14、4型9、3型8、1型6、2型3、6型1) ムンプスウイルス20件、エンテロウイルス71型(EV71)11件、CA9型3件の分離が報告されている。

咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス 2000年

アデノウイルス(Ad)45件(3型16、1型12、2型11、4型2、5型2、6型1、19型1)の分離が報告されている。

流行性角結膜炎から分離されたウイルス 2000年

アデノウイルス12件(19型3、4型2、8型2、37型2、2型1、3型1、7型1)の分離が報告されている。



セラチアによる院内感染について - 東京都

セラチアは下水等の湿性環境や入院患者の喀痰および尿から分離される場合が多く、弱毒菌、常在菌であるが、癌、白血病、糖尿病、AIDS、移植医療受療者等免疫能力が低下した患者では本菌による敗血症(菌血症)はそれほど稀ではない。また病院では、通常重篤な疾病を引き起こすことの少ない病原体による感染症、いわゆる日和見感染症や院内感染を起こす病原体として認識されている。

1999(平成11)年7月下旬、都内のS病院の3階病棟に入院中の患者数名が突然の高熱、凝固障害(DIC)、急性腎不全等を併発して次々に重症化し、そのうち5名が死亡するという事件が発生した。当初はその原因としてレジオネラ感染症などが考えられたが、発熱患者10名の血液培養よりセラチアが検出されたため、今回の疾患はグラム陰性菌であるセラチアを原因とした敗血症の集団発生であると結論された。

東京都衛生局は8月3日、不明疾患調査班を設置し、感染経路、感染原因等の調査を行った。

患者由来検体、環境検体(冷却塔水等)等が集められ都立衛生研究所に搬入された。病原体については、環境検体からはレジオネラとセラチアが検出された。患者血液からはセラチアのみが検出され、他の起因菌となりうる菌は検出されず、セラチアによる敗血症が死因ではないかと考えられた。その後の調査で2階の無症状患者の尿からもセラチアが検出されたため、敗血症患者由来セラチア12株、無症状患者由来株および環境由来株等計23株のセラチアについて解析を行った。XbaI、SpeI 2種類の制限酵素によるPFGE、RAPD PCR、プラスミドプロファイルによる遺伝子解析、12種類の抗生物質によるディスク法での薬剤感受性試験、31種類の性状試験の結果、供試したセラチアは9グループに分類され、敗血症患者10人から分離された12株はすべて同一グループに属し同一感染源であることが示唆されたが、感染経路については特定できなかった。

一般に、病院施設内にはセラチア・MRSA等の病原体が存在しており、施設内での医療器具・投与薬剤等の無菌管理が重要であることが示唆された(詳細は「東京都不明疾患調査班報告書:平成12年3月・東京都衛生局医療福祉部結核感染症課参照」)。

東京都立衛生研究所微生物部

遠藤美代子 奥野ルミ 下島優香子 村田以和夫 関根大正 小久保彌太郎

(IASR8月号より抜粋、詳細はIASR Vol. 21 No. 8, 2000 P.5-6参照)

セラチアの輸液中での増殖実験

セラチアによる日和見感染ではその感染経路の特定は容易でない。一度に大量の菌に暴露されうる経路としては、点滴輸液を介した感染も否定できない。東京都内の病院における点滴輸液の準備について調査した結果、点滴主ボトル、調合薬剤の準備は薬剤師が行い、「ぬきさし」点滴については前日の準夜帯(16時～18時)に患者受け持ち看護婦が、処置室において主ボトルと調合薬剤を混合して準備し、室温に静置し(調製から点滴開始まで10時間以上)、翌日投与していた。

そこで輸液中におけるセラチアの増殖実験を実施した。その結果、病院で使用していた輸液9種中5種(静注用脂肪乳剤、血漿増量・体外循環灌流液、総合電解質液、糖・電解質・アミノ酸液、日本薬局方ブドウ糖注射液)において、室温・24時間で多い場合には 10^6 倍以上(静注用脂肪乳剤)、少ない場合でも 10^3 倍の増殖が認められた。

また、点滴輸液のボトルの注入口(ゴムキャップ)に菌を付着させ、注射針で注入口を通過させると菌はボトル中に侵入することも確認された。

これらの結果より、輸液ボトルの調製中に菌が混入し、室温に10時間以上おかれた場合、輸液中では菌は相当な数にまで増菌し、大量の菌の暴露源となり、敗血症の短期集中発生の原因となりうることを示唆された。

東京都立衛生研究所微生物部

遠藤美代子 奥野ルミ 下島優香子 村田以和夫 関根大正 小久保彌太郎

(IASR8月号より抜粋、詳細はIASR Vol. 21 No. 8, 2000 P.6参照)



海外感染症情報

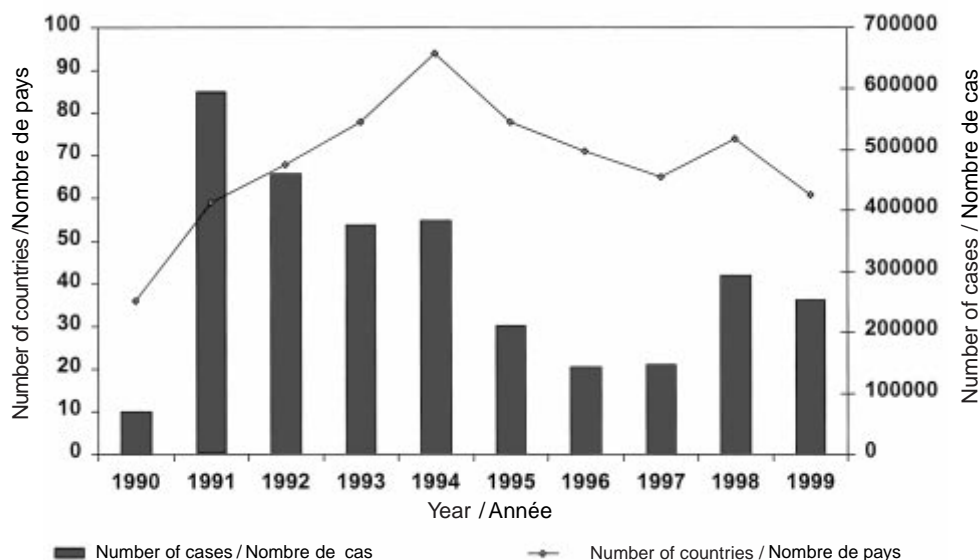
コレラの世界状況 1999年

WHO/WER No.31, 2000, 75, 249-256

世界の全地域で *Vibrio cholerae* O1 エルトール型によるコレラの報告が続いている。エルトールコレラは1961年から始まった7回目のコレラ流行の原因となっている。61カ国からの公式なWHOへの報告によると、1999年の患者総数は254,310名、死亡9,175名であり、1998年の報告数293,121名と比べると87%に減少した。全体の致死率(CFR)は3.6%で変化がみられなかった。アフリカの患者総数は206,746名で世界総数の81%を占めており、致死率はおよそ4.2%で変化がない。アジアからは患者総数39,417名が報告され、1998年の患者数24,212名の1.63倍に増加した。未報告の患者やその他サーベイランスシステムの限界があることから、実際の患者数はさらに多いと予測される。

1999年にマダガスカル島におけるコレラの発生が注目された。マダガスカル島では過去数十年間コレラは発生していなかった。アフリカ大陸では、マラウイ、ナイジェリア、ソマリア、ザンビアおよびジンバブエで大流行がみられた。アジアでは、アフガニスタンで患者数の大幅な増加が報告された。アメリカ大陸では、1999年の患者総数は8,126名で1998年57,106名の14%に減少した。これは南米の西岸諸国で患者数が大幅に減少したことによる。要約すると、1999年の世界のコレラ患者総数は若干減少した(Fig.1)。全体の致死率の改善は見られなかった。アメリカ大陸からは、患者数の大幅な減少が報告されたが、アジアでは患者総数は増加した。アフリカの患者数は、依然としてその他各国の患者数を遙かに凌いでいる。

Fig. 1 Countries/areas reporting cholera and cases reported, by year, 1990-1999 *
Pays/territoires notifiant des cas de choléra et nombre de cas notifiés, par année, 1990-1999 *



* 1998 figures may be amended due to late reporting.

* Les chiffres pour 1998 ont pu être corrigés suite à des notifications tardives.

[感染様式と流行]

アフリカ

近年、コレラに対しての関心が高まってきていることから報告が増加している。この地域の28カ国から患者が報告された。しかしながら不当な貿易制裁が課せられることを懸念して、未だにコレラの発生を報告しない国が存在する。アフリカで報告されたコレラ患者総数は、昨年に比べ若干減少した。患者数の減少は、西アフリカばかりでなく中央アフリカでも記録された。モザンビークおよびタンザニアでは患者数に変化はみられなかった。しかしマラウイ、ザンビア、およびジンバブエで報告された1999年のコレラ患者累積数は43,680名に増加した(1998年累積患者数2,911名)。コレラはアフリカの南部地域で大きな問題となっており、アフリカで発生したコレラ患者総数の52%がこの地域から報告された。天候の変化に伴いコレラの流行は変化しており、流行のサイクルは短縮されてきている。患者の大半は1999年1月から4月に発生した。ソマリアでのコレラ患者数は17,757名で1998年の患者数4,404名の4倍に増加し、過去数年間と比べ感染地域の広がりが見られた。西アフリカでの患者数はベニン(855名)、ガーナ(9,432名)、ニジェール(1,186名)、およびナイジェリア(26,358名)で増加した。マダガスカルは過去数十年間コレラの発生はみられなかったが、1999年3月初めて *V. cholerae* の感染がみられた。1999年末までに患者数9,745名と死者542名が主に3つの地域から、公式にWHOに報告された。1999年最終週に、1999年4月の最初の流行ピークとなった週より多くの患者数が記録された。1999年のマダカスカルの致死率は5.6%であった。

アメリカ大陸

1999年のコレラ患者数(8,126名)は大幅に減少した。この地域の患者数は1997年まで減少(17,760名)していたが、1998年再び増加(57,106名)がみられた。1999年患者総数8,126名と死亡103名がWHOに報告された。コロンビア、エクアドルおよびペルーで患者数が大幅に減少したことが報告された。しかしブラジル、エルサルバドルで患者数の増加が報告された。全体で、コレラ患者が12カ国から報告され、そのうち米国からは数名の輸入患者が報告された。ちなみに1998年は16カ国から報告があった。1991年アメリカ大陸で初めてコレラが発生して以来、流行規模は大幅に減少したが、コレラのサーベイランス、予防および抑制を実施する強力な地域での対策は維持するべきである。

アジア

この地域の全患者数が報告されたわけではないが、報告されたコレラの患者数は増加を続けている。1999年患者総数39,417名と死亡344名が報告され、1998年の患者数24,212名と死亡172名に比べ、患者数は1.6倍に増加した。報告された死亡数は2倍となった。しかし致死率は1%以下となった。

アフガニスタンは、患者24,639名を報告したが、これはアジア全体(39,417名)の60%以上を占め、1998年(10,000名)の約2.5倍、1997年(4,170名)の約6倍に増加した。過去数年間にコレラ患者は主に中央地域のカブール州で発生した。患者の報告があったその他の国は、カンボジア(1,711名)、中国(4,570名)、インド(3,839名)、イラク(1,985名)およびイラン(1,369名)であった。*V. cholerae* O139は1992年末ベンガル湾で出現したコレラ菌で、現在までに10カ国で検出された。*V. cholerae* O139はアジアのコレラ流行国で、検査によりコレラと確認された患者のうち約17%を占めている。このベンガルコレラが新たな驚異となるか否かは、現在のところ不明である。

ヨーロッパ

ヨーロッパでは1998年に比べコレラ患者数の減少がみられ、1997年と同様の患者数が報告された。わずか患者16名(死亡0名)がWHOに報告されたが、患者のほとんどは輸入例であった。2カ国のみが国内発生患者を報告した。ロシア連邦が国内発生患者3名(輸入例5名)、ウクライナが国内発生患者2名を報告した。その他輸入例が、オーストリア、ドイツおよびオランダから報告された。1999年、5カ国からコレラ患者が報告された。ちなみに1998年は10カ国、1997年は6カ国から報告があった。

オセアニア

オセアニアは1999年患者5名を報告し、そのすべてが輸入例であった。オーストラリアから患者4名、ニュージーランドから1名が報告された。

注) 97年と98年の症例数は、WER 6 August 1999, No.31およびWER 3 July 1998, No.27から引用した。



感染症の話

PRSP(penicillin-resistant *Streptococcus pneumoniae*: ペニシリン耐性肺炎球菌)

PRSPは、肺炎球菌や化膿連鎖球菌などグラム陽性球菌に有効な抗生物質であるペニシリンに耐性を獲得した肺炎球菌である。PRSPの病原性は、肺炎球菌と同等であり健常者の口腔などに定着していても、通常は無症状であるが、咽頭炎や扁桃炎などの炎症が発生した場合には、炎症部位で菌が増殖し感染症状を呈することが多い。また、乳幼児の化膿性髄膜炎や小児の中耳炎、肺炎、高齢者の肺炎などの原因菌となる。ペニシリンに対する耐性度によりペニシリン低感受性菌(PISP)とペニシリン耐性菌(PRSP)に区別される。

疫学

1967年頃、オーストラリアで、無-グロブリン血症の患者からペニシリンのMIC値が0.6 μg/mlの肺炎球菌が報告されていたが、1974年に米国内で化膿性髄膜炎の患者から、MIC値が0.25 μg/mlの肺炎球菌が分離された。1977年には、現在のPRSPと同程度のペニシリン耐性(MIC, 4 μg/ml)を獲得した肺炎球菌が南アフリカのダーバンで分離された。1970年代の後半より、この種のペニシリンに低感受性や耐性を示す肺炎球菌がスペイン、フランス、ドイツなどで徐々に問題となり始め、1980年代の後半には南米諸国やアジア各国からも分離されるようになった。PRSPの血清型としては、6、9、14、19、23型が世界的に主流となっている。1980年代の後半から欧米のみならず発展途上国などで増加し、現在、臨床分離される肺炎球菌の30～50%程度がPISP+PRSPと判定されるのが一般的となっている。我が国でも、現時点で、PISP+PRSPの分離率が50%前後を示す医療施設が多くなっている。喀痰、咽頭、鼻腔、耳漏などからの分離例が大半を占め、無症状のいわゆる「定着例」と考えられる事例も多い。

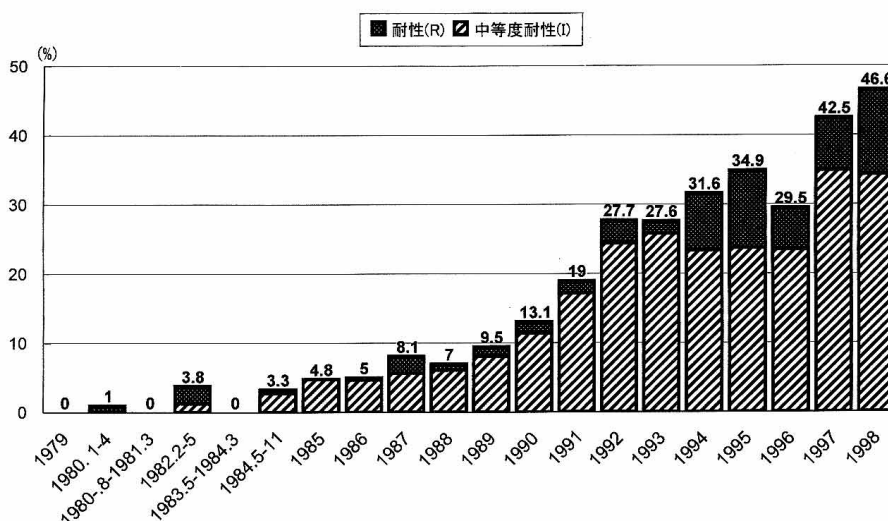


図1 ペニシリン耐性肺炎球菌の年次推移

百分率は各年度に分離された肺炎球菌の菌株数に対するペニシリン中等度耐性株および耐性株の頻度を示す。各年度の分離株数は次の通りである。1979年(106株), 1980.1～4(101), 1980.8～1981.3(78), 1982.2～5(79), 1983.5～1984.3(161), 1984.5～11(213), 1985(251), 1986(343), 1987(331), 1988(214), 1989(296), 1990(289), 1991(285), 1992(242), 1993(163), 1994(158), 1995(169), 1996(150), 1997(155), 1998(154)

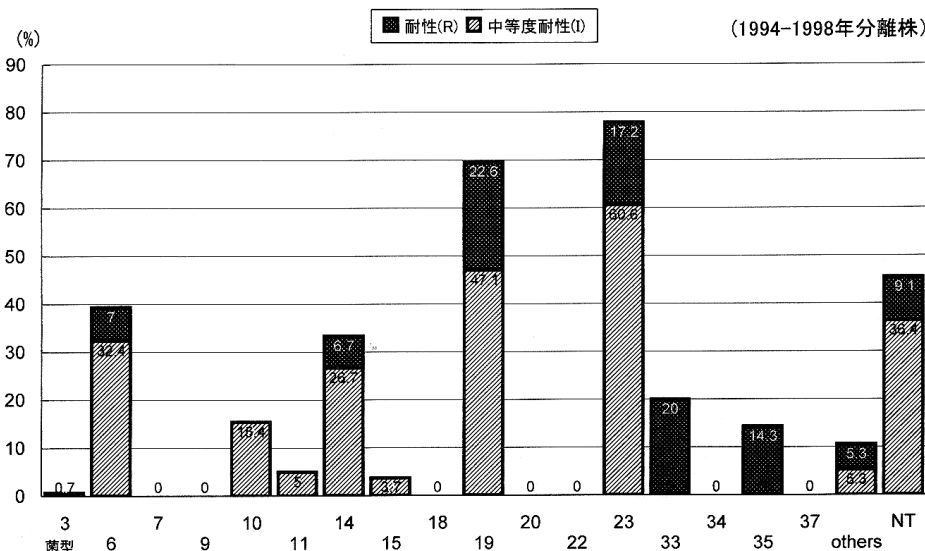


図2 菌型別にみたペニシリン耐性肺炎球菌の出現率

百分率は各菌型の菌株数に対するペニシリン中等度耐性株および耐性株の頻度を示す。各菌型の分離株数は次の通りである。3型(136株), 6(142), 7(6), 9(12), 10(13), 11(20), 14(30), 15(27), 18(12), 19(155), 20(7), 22(16), 23(99), 33(5), 34(5), 35(7), 37(8), その他(19), NT(型別不能, 88)

【図1、2. 臨床病理 111:53, 2000. (臨床病理レビュー特集第111号 臨床検査 Year Book 2000)より】

病原体

肺炎球菌は、健常者であっても口腔や鼻腔などに、多少の差は見られるものの必ず存在する弱毒性の常在細菌である。PRSPは、ペニシリンに耐性を獲得してはいるものの、病原性や増殖能力などの生物学的な特徴はペニシリン感受性の肺炎球菌と何ら変わりはない。ペニシリンに対する耐性は、細菌の外膜層を構成するペプチドグリカンの生合成に關与するペニシリン結合蛋白 (PBP1A, PBP2B) の変異やPBP2Xと命名された変種のPBPの獲得による。耐性度の高い菌株では、複数のペニシリン結合蛋白の変異に集積性が認められ、MIC値が1 μg/ml以上のPRSPでは、ペニシリンの標的である3種類のPBP (PBP1A, PBP2B, PBP2X) の全てに何らかの変異が同時に見られる事が多い。特に、これらのPRSPは、経口セフェム薬であるセファクロル(CCL)に高度耐性(MIC, 32 μg/ml)を示すものが多い。

[多剤耐性肺炎球菌]

1970年代の後半には、ハンガリーで、ペニシリン、エリスロマイシン、テトラサイクリンに同時に耐性を獲得した肺炎球菌が分離されている。今日、臨床分離されるPRSPは、既に、ミノサイクリンに対しては高い耐性率を獲得しており、しかも、それらのいくらかはermAM遺伝子などの獲得によるエリスロマイシン、クラリスロマイシンなどのマクロライド薬にも耐性を獲得している。さらに、DNAジャイレースなどの変異によるニューキノロン耐性菌も少数ではあるが分離されている。このように、肺炎球菌ではペニシリンや経口セフェム薬のみならず、テトラサイクリン、マクロライド、ニューキノロンを含む広範囲の抗菌薬に対し耐性を獲得した「多剤耐性肺炎球菌」の増加が、地球規模で問題となりはじめています。

表3 肺炎球菌の薬剤感受性(1998年分離株)

薬剤	菌株数	MIC(μ g/ml)												MIC50	MIC 90	耐性率	
		≤ 0.063	0.125	0.25	0.5	1	2	4	8	16	32	64	128				>128
PCG	154	82	5	9	13	26	18	1							≤ 0.063	2	46.8
CTX	154	44	41	16	36	16	1								0.125	1	11
CFPM	99	26	23	14	17	14	5								0.25	1	19.2
CDTR	150	41	39	11	33	20	5	1							0.125	1	4
CFDN	150	31	21	33	7	5	22	20	10	1					0.25	4	35.3
IPM	154	130	19	4	1										≤ 0.063	0.125	3.2
PAPM	154	138	16												≤ 0.063	0.125	0
FRPM	150	95	17	30	8										≤ 0.063	0.25	
EM	154	42				2	5	26	3	2	2	1	3	68	8	>128	72.7
CLDM	154	79	1					2				5	13	54	≤ 0.063	>128	48.1
OFLX	154	2			5	35	103	5		2	1	1			2	2	5.8
MINO	150	27	1	1	2		3	33	50	32	1				8	16	77.3
VCM	154	3		70	81										0.5	0.5	0

注1: MIC分布の縦の太線はNCCLSのブレイクポイント, 細い線はブレイクポイントが設定されていないため, 類似薬のものを用いた。
 なお, CDTR, CFDNは日本化学療法学会の呼吸器感染症のブレイクポイント(肺炎)を用いた。
 注2: 耐性率はI(中間), R(耐性)を耐性とした。

【表3. 臨床病理 111:54, 2000.(臨床病理レビュー特集第111号 臨床検査 Year Book 2000)より】

臨床症状

小児の中耳炎や咽頭炎、扁桃炎などからしばしば分離される。特に0~6才児や60才以上の高齢者などで感染防御能力の減弱した患者に敗血症や髄膜炎、肺炎などを引き起こすが、それらの多くは、ウイルス性などの上気道炎に続発して発生する事が多く、青壮年の健常者に肺炎などの感染症を引き起こす事は稀である。

病原診断

薬剤感受性試験: 各医療施設において日常的に実施されている同定試験や薬剤感受性試験法により、肺炎球菌であって、微量液体希釈法によりペニシリンGに対する感受性試験結果が、MIC値で 2μ g/mlと判定された株はPRSP、 $0.12 \sim 1 \mu$ g/mlと判定された場合は、PISPとする(NCCLS標準法)

disk拡散法を用いた場合には、PCGの阻止円の直径が 20mm を感受性菌(PSSP)とするが、その他の場合には、MIC値を測定し判定することが推奨されている。

治療・予防

PRSPが口腔や鼻腔から分離されたのみで、感染症の症状を呈さない、いわゆる「定着例」と判断される症例に対しては、除菌目的の抗菌薬投与や隔離は行わない。PRSPによる中耳炎や副鼻腔炎の場合は、外科的治療に抗菌薬治療が併用されるが、敗血症や髄膜炎、肺炎、術創感染症などの重症感染症の患者の治療には、感受性が期待できる抗菌薬の投与が必須である。カルバペネムやペニシリンの大量投与療法が一般的であるが、重症例ではカルバペネムとグリコペブタイドなどの併用療法などが試みられている。成人にはニューキノロンの投与が有効な場合も多い。

予防手段としては、通常の院内感染対策の方法により、感染者または排菌者から、免疫抑制状態の高齢者などハイリスク患者への菌の伝播を防止する対策がとられる。また、感染・発病予防法として、肺炎球菌多価ワクチン(ニューモバックス)が認可されている。

感染症法の中でのペニシリン耐性肺炎球菌の取扱い

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は第4類感染症に分類され、その発生動向は病院定点からの報告により把握される。平成11年4月～12月のPRSP感染症累計報告数は2,058、平成12年1月～7月の累計は2,529となっており、すでに昨年度の報告数を上回っている。

報告のための基準は以下の通りとなっている。

当該疾患を疑う症状や所見があり、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの。

・病原体の検出

(1) 血液、腹水、胸水、髄液など、通常は無菌的であるべき臨床検体から分離された場合(敗血症・心内膜炎、腹膜炎、胸膜炎、髄膜炎、骨髄炎など)で、以下の検査室での判断基準を満たすもの

(2) 喀痰、膿、尿、便など無菌的ではない検体からの分離では、感染症の起因为菌と判定された場合(肺炎などの呼吸器感染症、肝・胆道系感染症、創傷感染症、腎盂腎炎・複雑性尿路感染症、扁桃炎、細菌性中耳炎・副鼻腔炎、皮膚・軟部組織感染症など)で、以下の検査室での判断基準を満たすもの

(検査室での判断基準)

ペニシリンのMIC, 0.125 μ g/ml

または、オキサシリンの感受性ディスク(KB)の阻止円の直径が19mm以下

(著者注:阻止円の直径が19mm以下の場合は、PISP, PRSPの可能性が高いが、確定するには、MIC値の測定を行うことが望ましい。)

(国立感染症研究所細菌製剤部 荒川宜親)



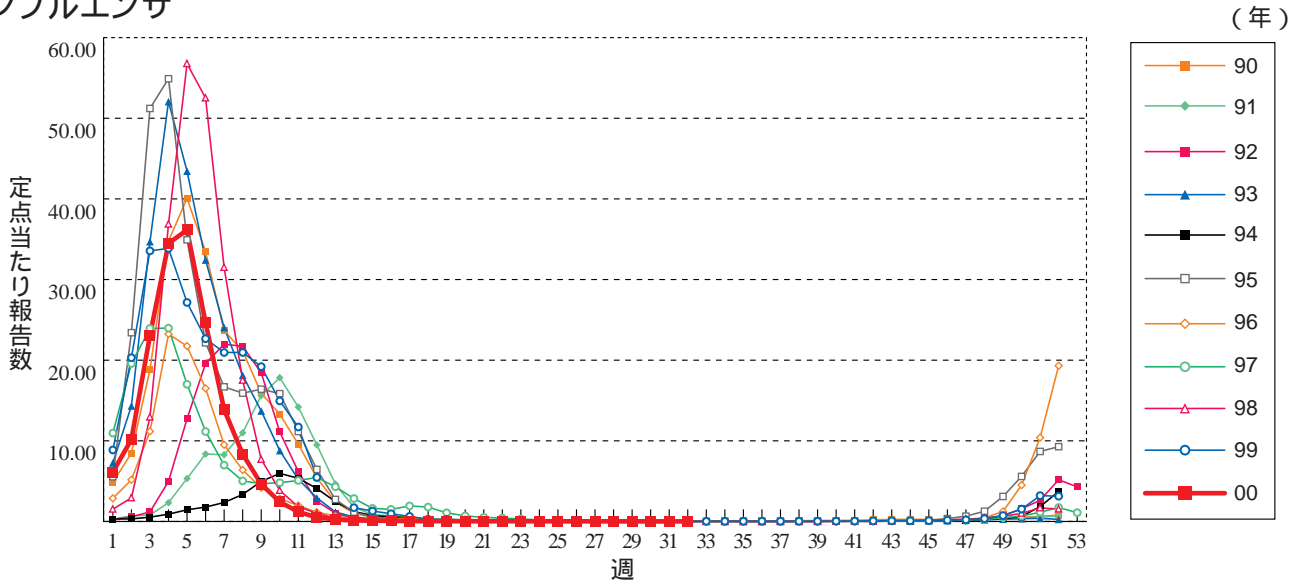
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

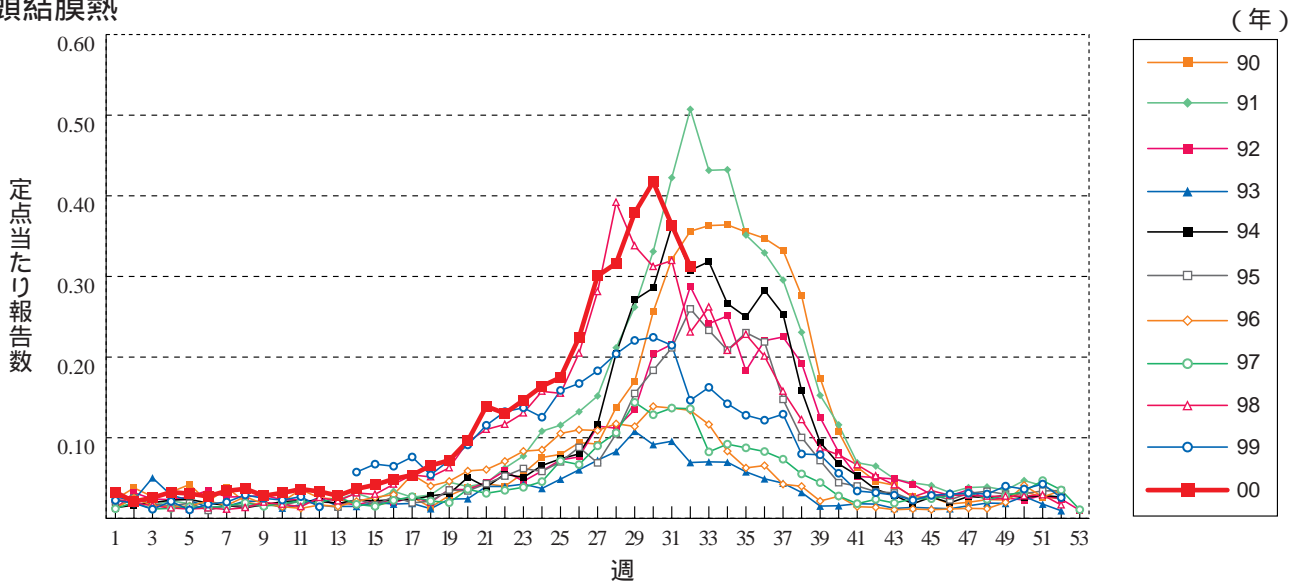
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(32週)

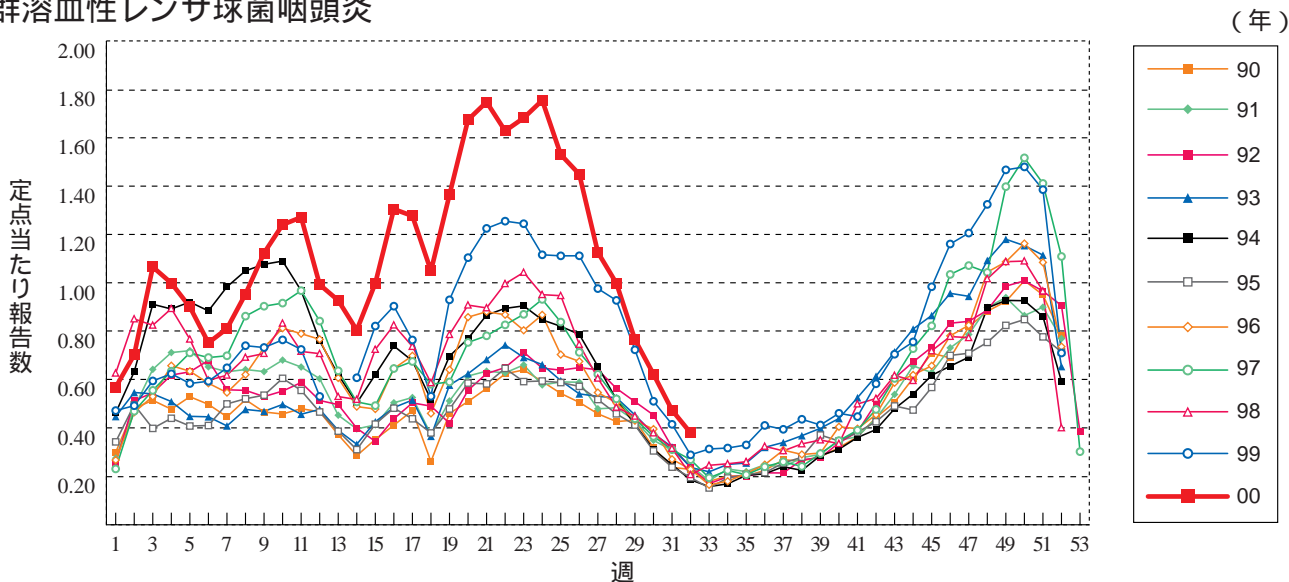
インフルエンザ



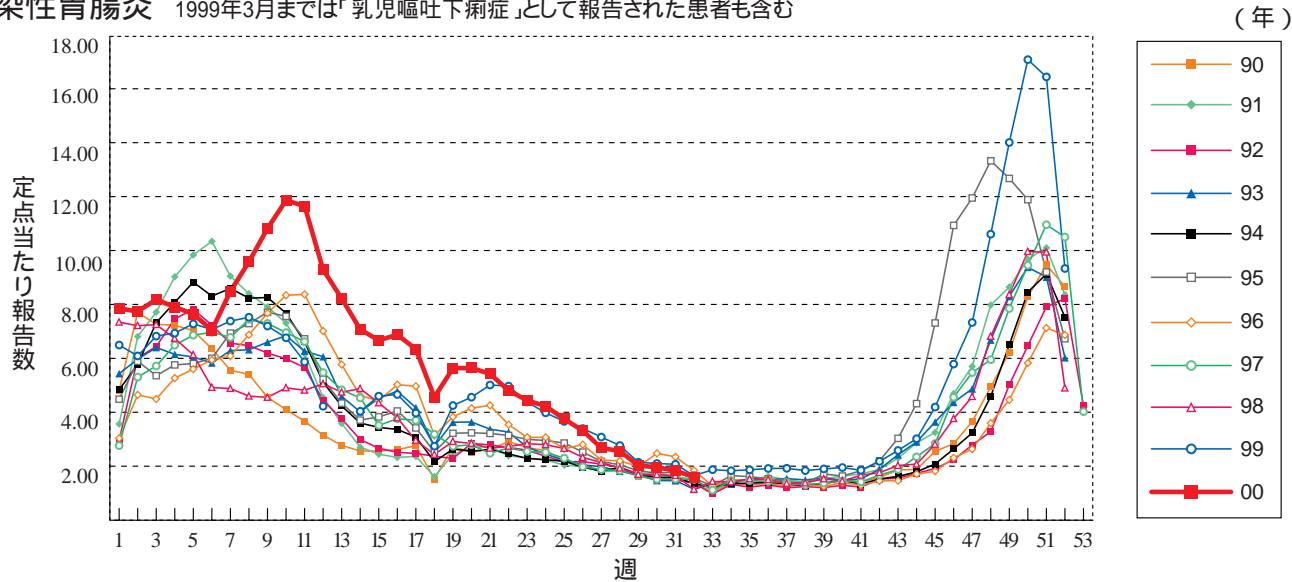
咽頭結膜熱



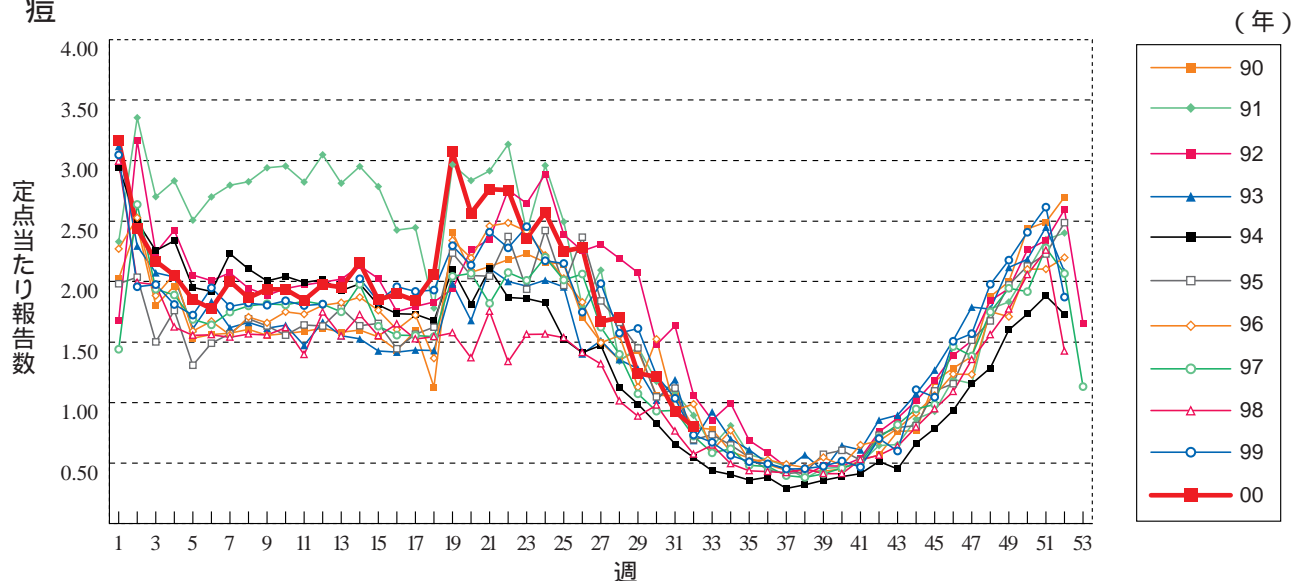
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



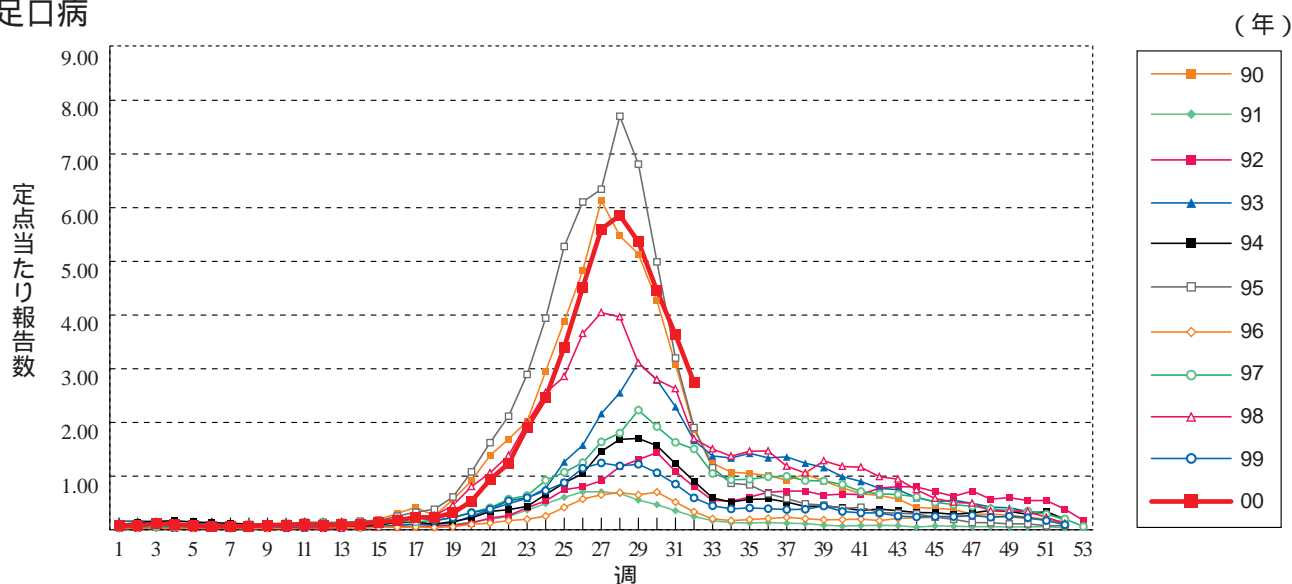
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



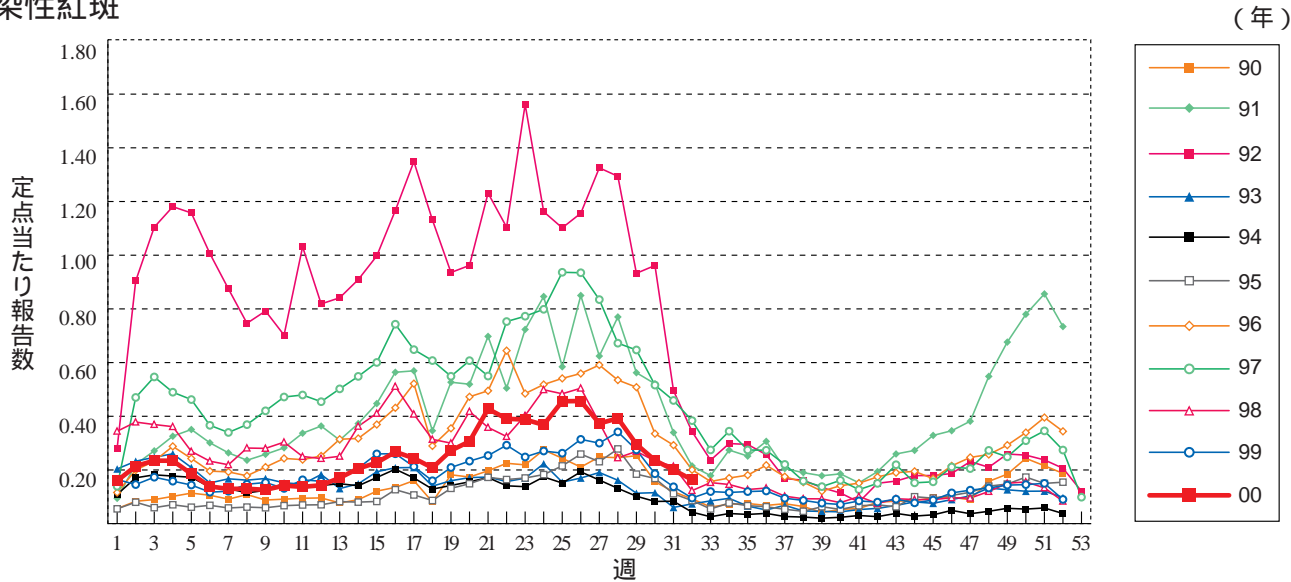
水痘



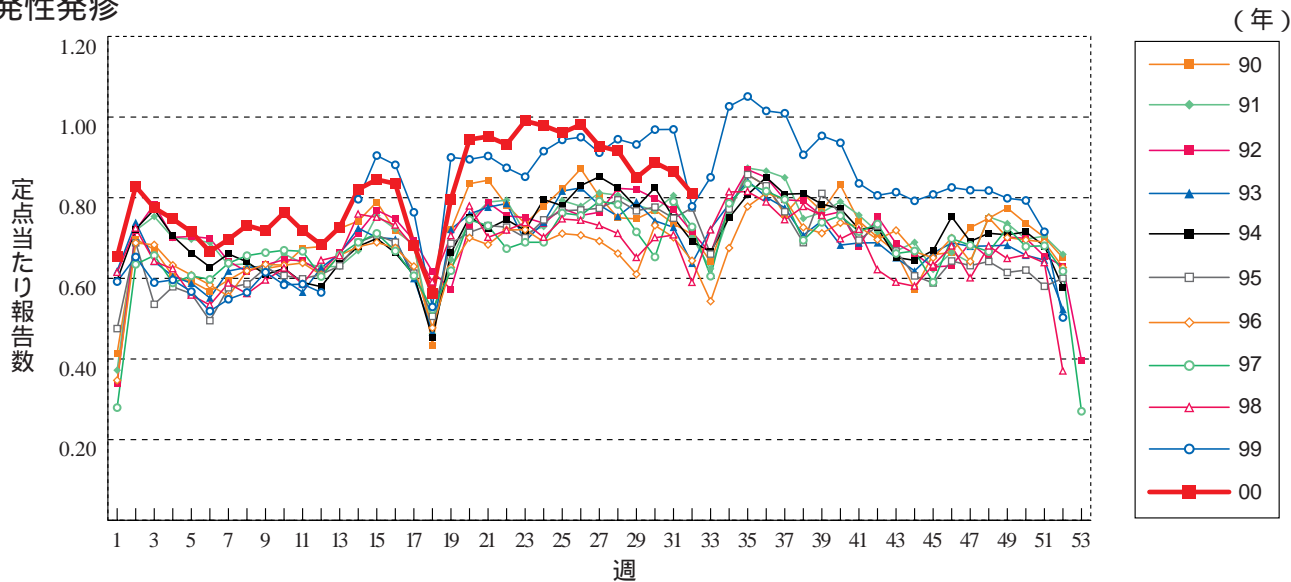
手足口病



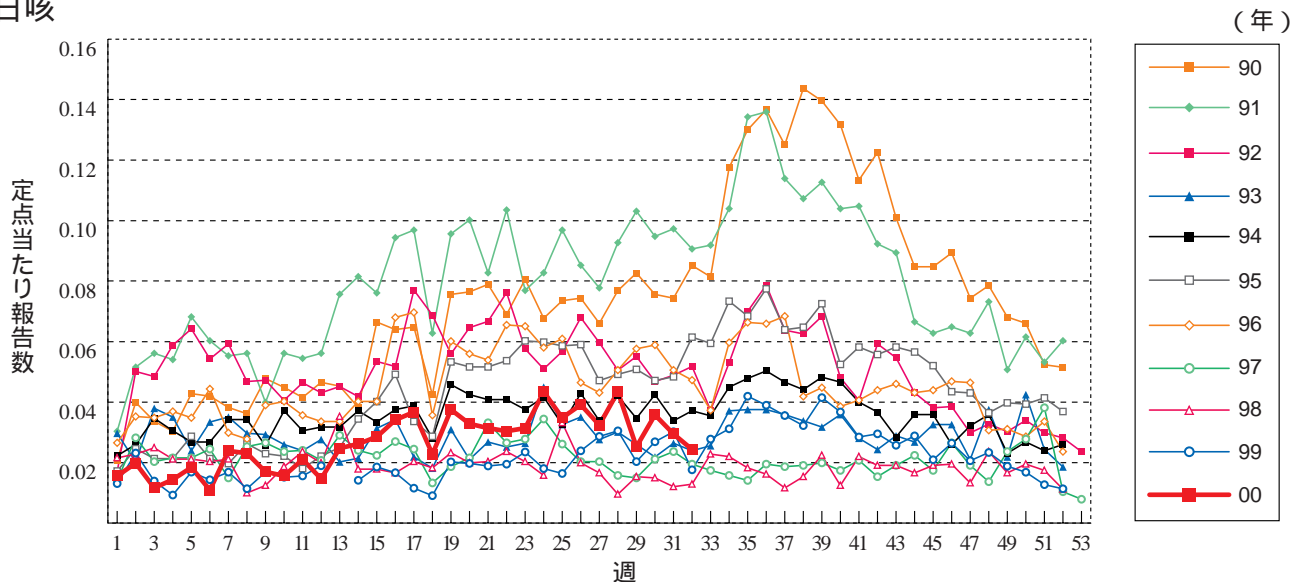
伝染性紅斑



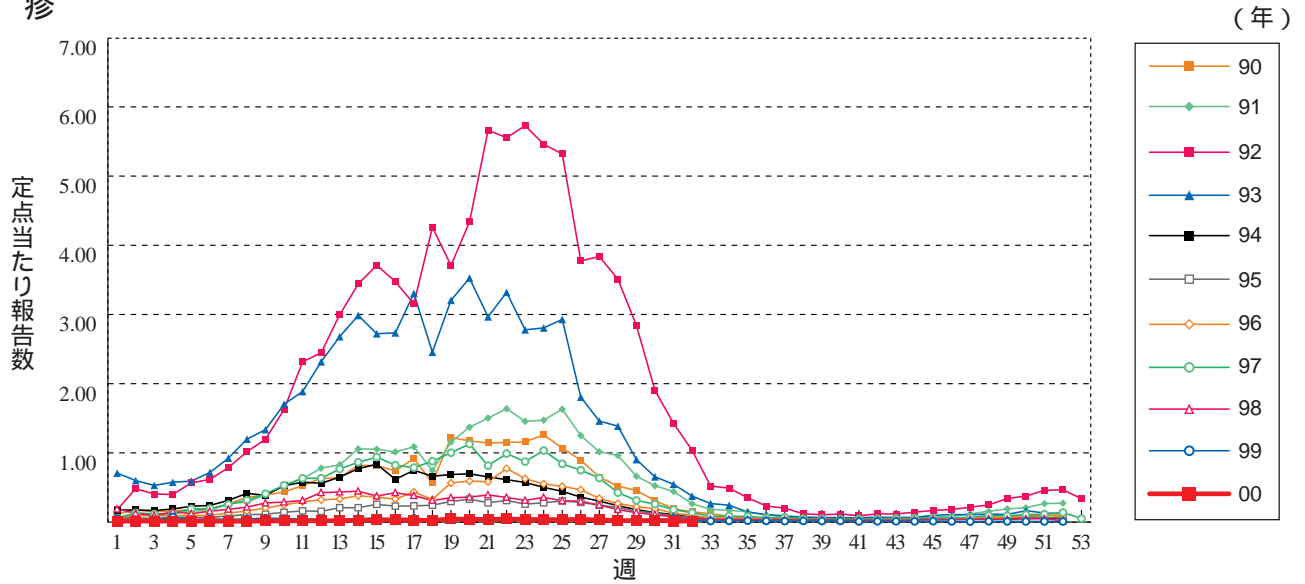
突発性発疹



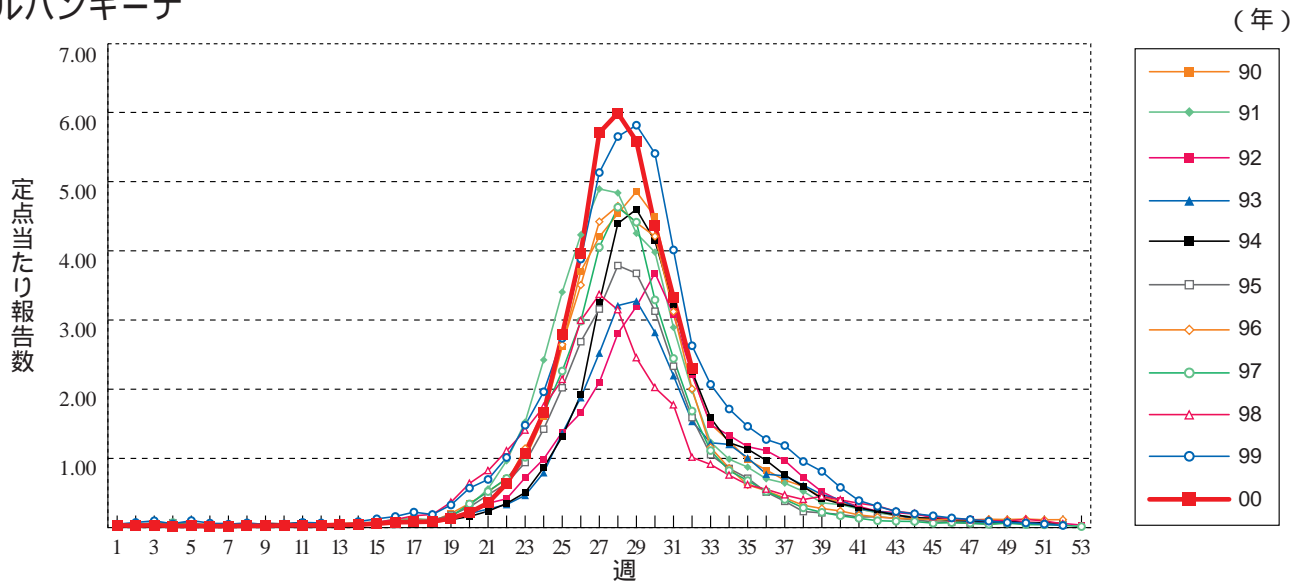
百日咳



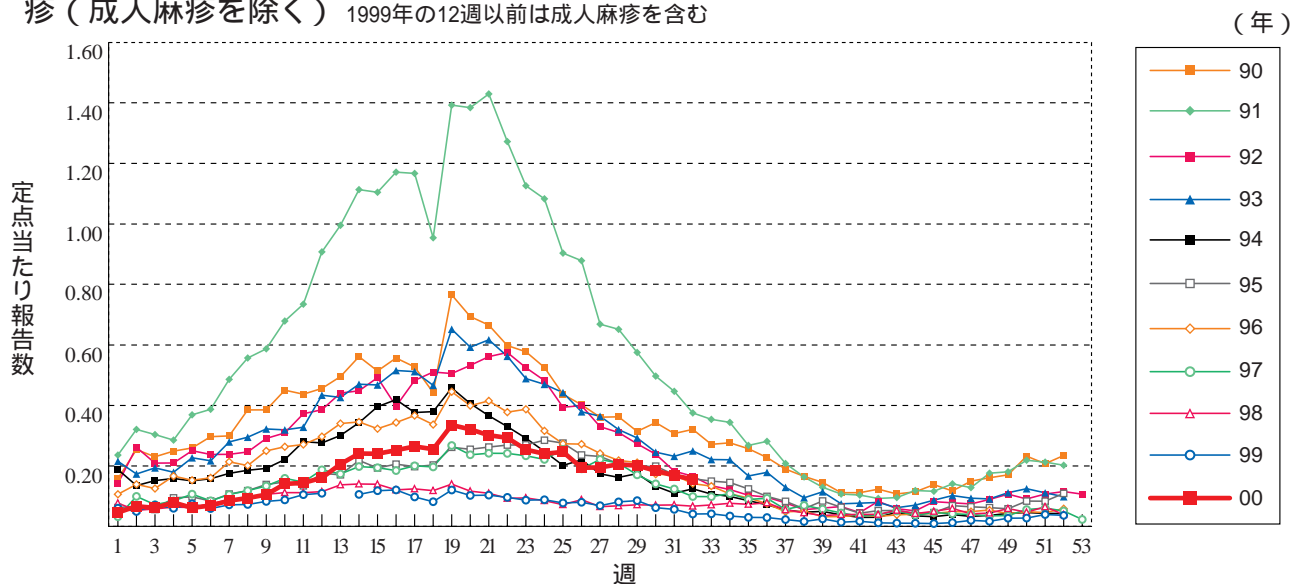
風 疹



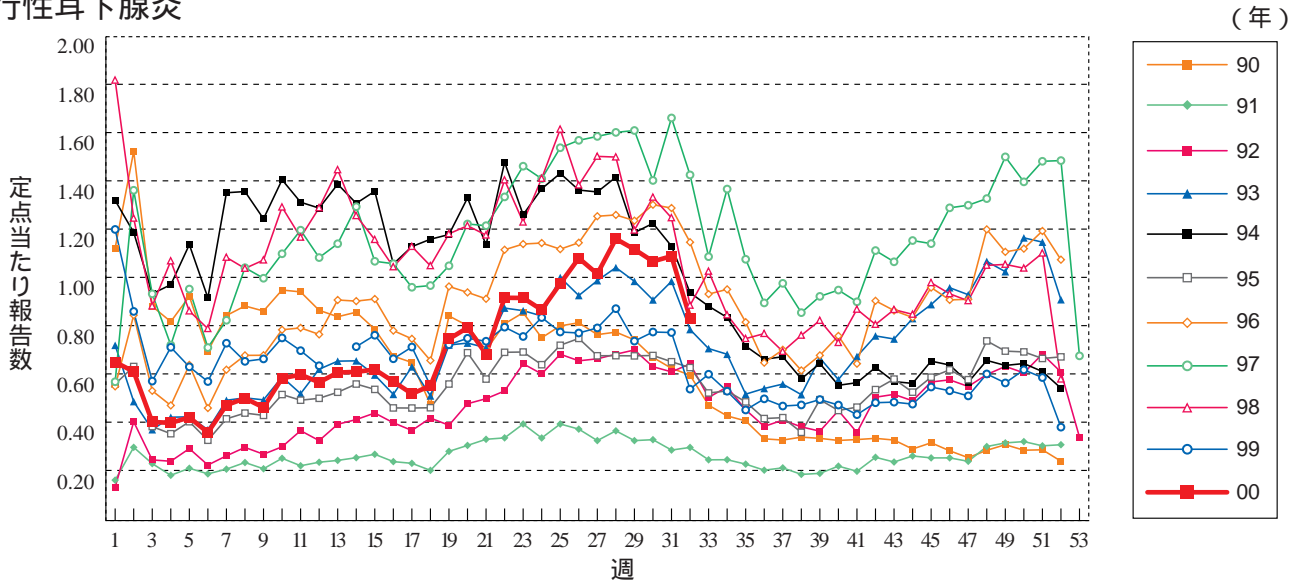
ヘルパンギーナ



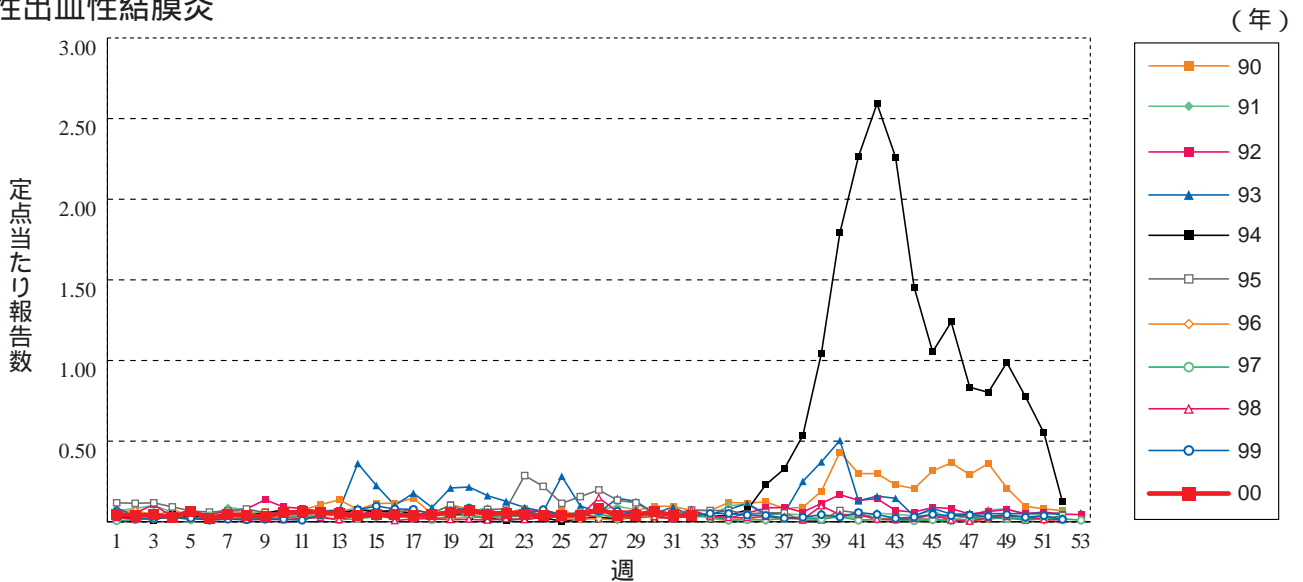
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



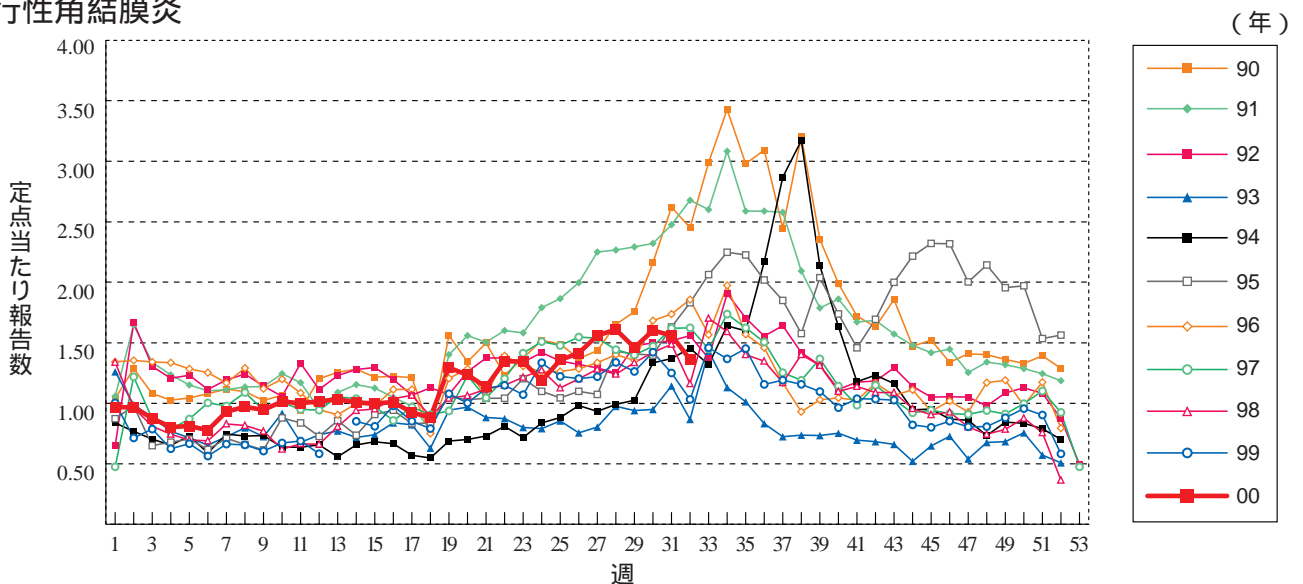
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

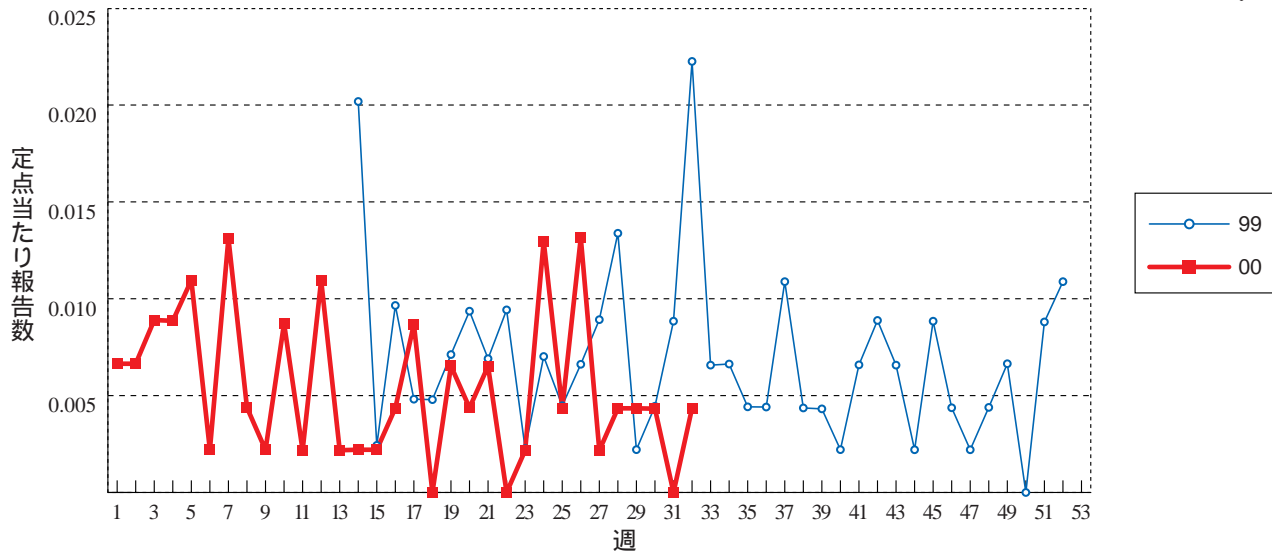


流行性角結膜炎



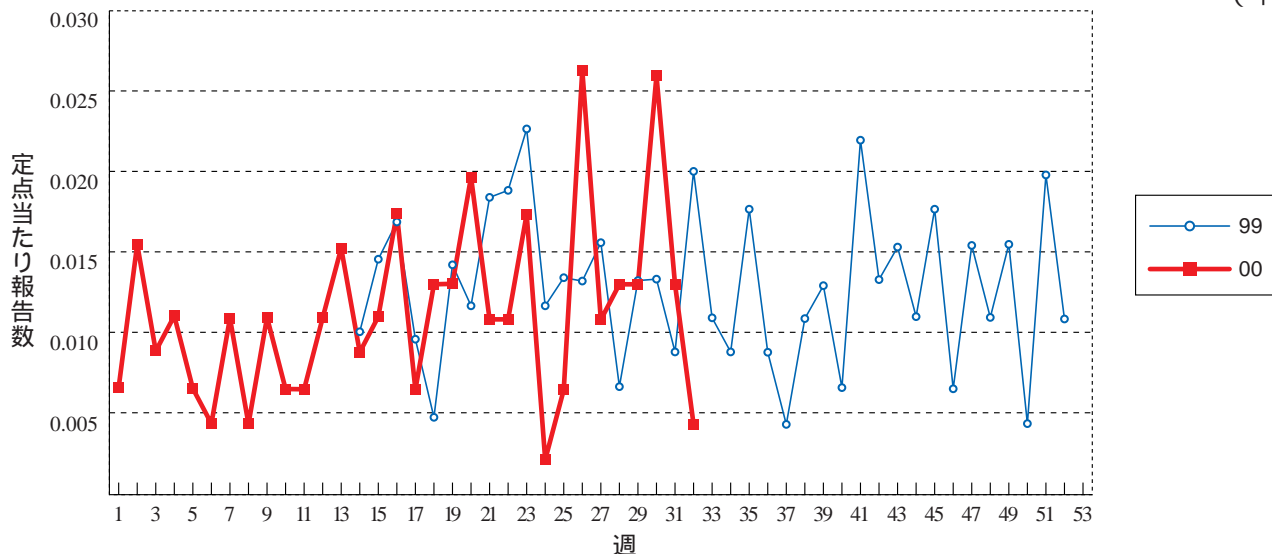
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



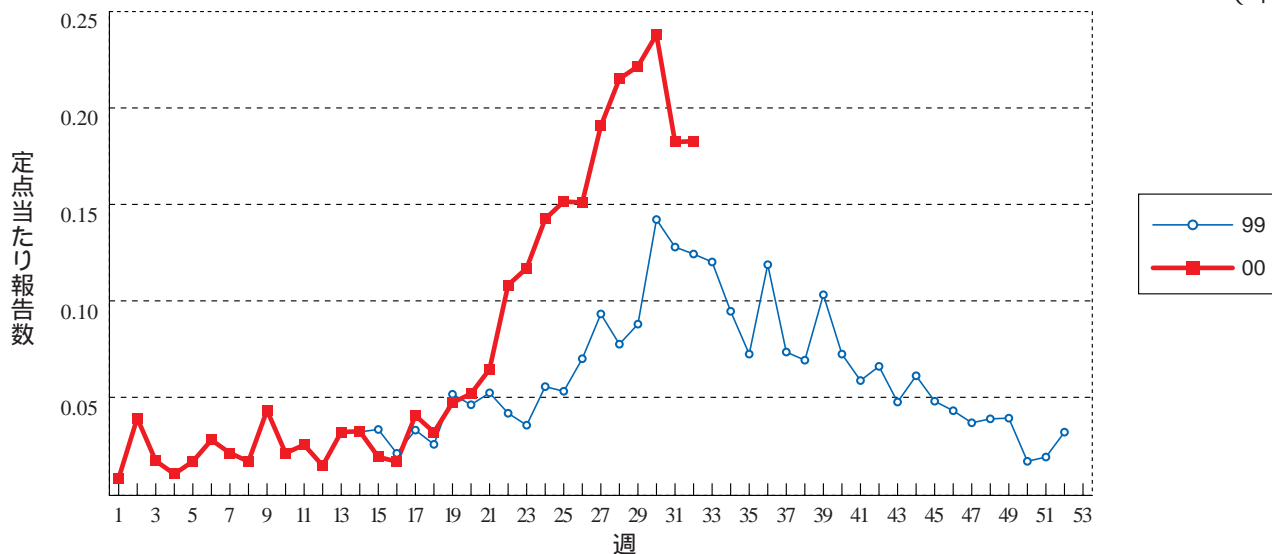
細菌性髄膜炎

(年)



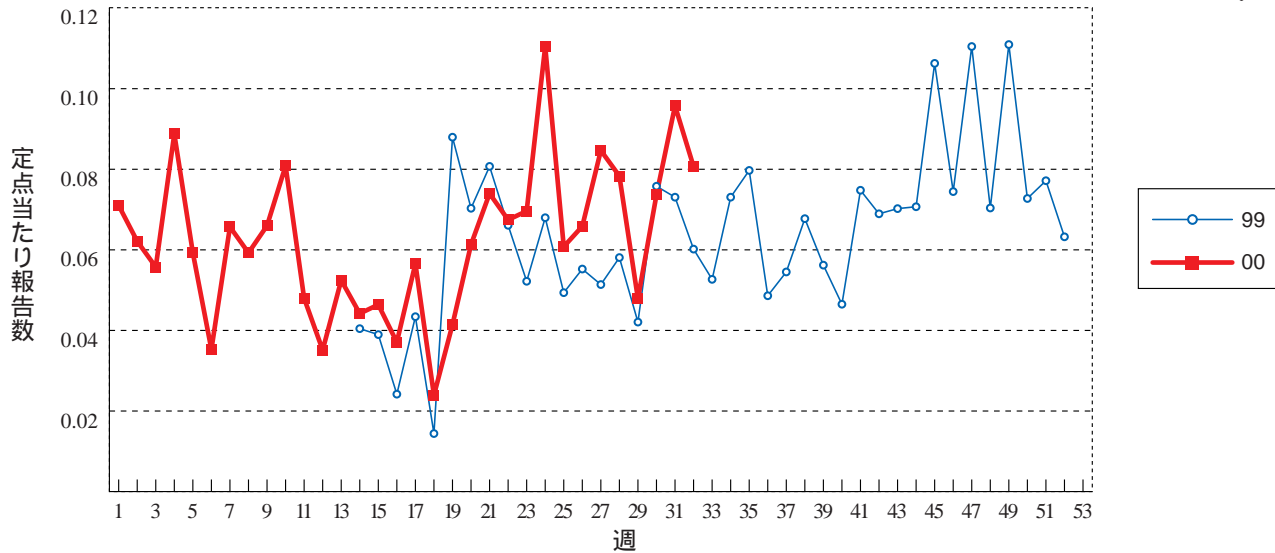
無菌性髄膜炎

(年)



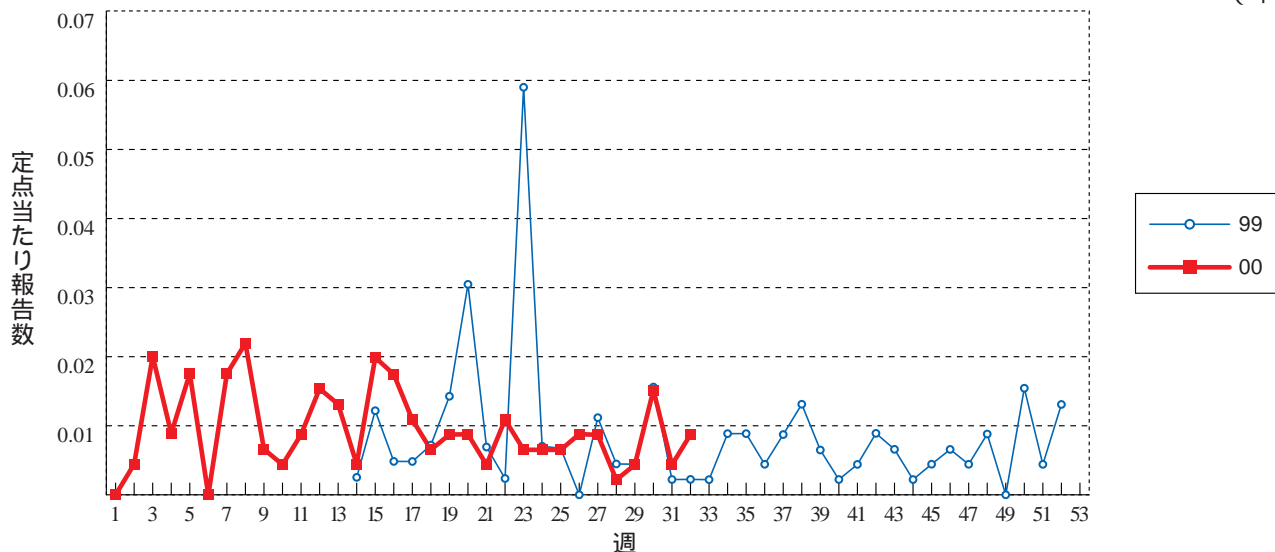
マイコプラズマ肺炎

(年)



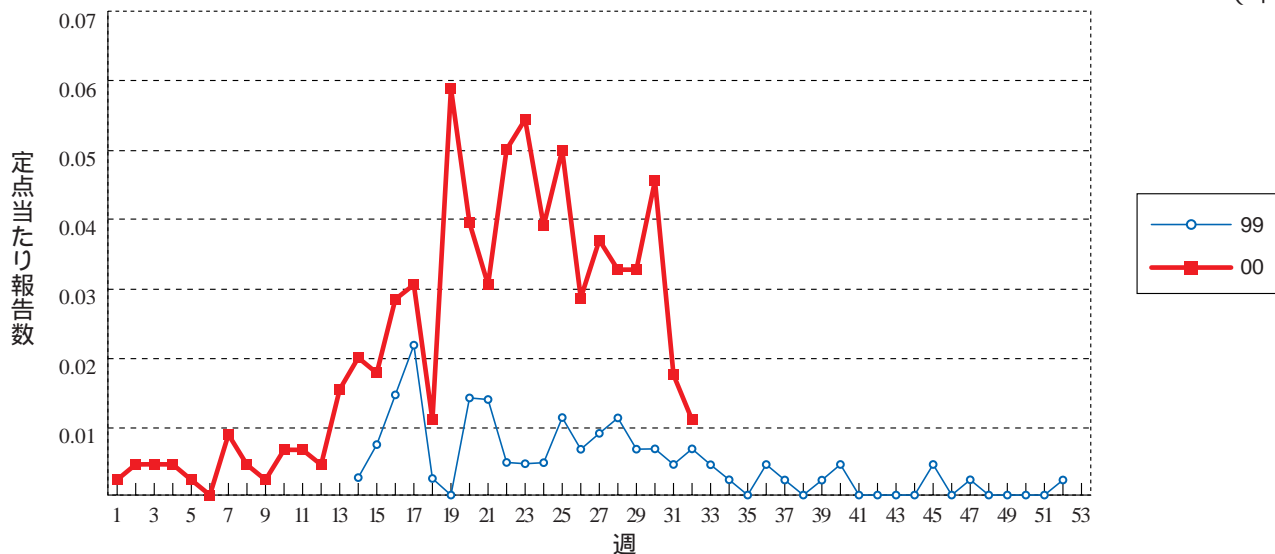
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





32週のデータ

注)表中の報告数は8月18日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年32週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	26	21	436	1	62	-	9
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	9	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	6	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	9	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	15	-	4	-	1
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	85	-	10	-	3
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	27	-	4	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	3	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	31	-	5	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	13	-	1	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	42	-	6	-	3
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	16	-	7	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	7	13	-	3	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	1	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	23	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年32週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	1	-	1	144	1647	4	227	-	11	-	-	-	13	-	-	10	641
北海道	-	-	-	-	2	53	-	4	-	10	-	-	-	-	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岩手県	-	-	-	-	5	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	9	31	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14
秋田県	-	-	-	-	6	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	-	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	9	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	1	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
栃木県	-	-	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	1	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
埼玉県	-	-	-	-	2	41	-	7	-	-	-	-	-	2	-	-	-	6
千葉県	-	-	-	-	6	51	-	10	-	-	-	-	-	1	-	-	-	10
東京都	-	-	-	-	9	134	1	58	-	-	-	-	-	3	-	-	1	73
神奈川県	-	-	-	-	3	122	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
新潟県	-	-	-	-	1	11	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	1	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
石川県	-	-	-	-	1	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
福井県	-	-	-	-	2	9	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
長野県	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	1	14	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
静岡県	-	-	-	-	1	21	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
愛知県	-	-	-	-	5	110	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	2	23
三重県	-	-	-	-	13	29	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
滋賀県	-	-	-	-	-	20	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
京都府	-	-	-	-	3	21	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	25
大阪府	-	-	-	-	23	161	-	40	-	-	-	-	-	1	-	-	-	72
兵庫県	-	-	-	-	8	87	1	23	-	-	-	-	-	-	-	-	1	72
奈良県	-	-	-	-	-	12	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11
和歌山県	-	-	-	-	-	30	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	6	18	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	40	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	21
広島県	-	-	-	-	11	66	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	17
山口県	-	-	-	-	2	16	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
香川県	-	-	-	-	3	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
愛媛県	-	-	-	-	2	16	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
高知県	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福岡県	-	-	-	-	-	99	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
佐賀県	-	-	-	-	6	21	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
大分県	-	-	-	-	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
宮崎県	-	1	-	-	4	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
鹿児島県	-	-	-	-	2	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
沖縄県	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年32週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	-	-	3	2	61	1	31	7	446	-	1	-	59	-	-
北海道	-	6	-	-	-	-	-	2	-	1	-	5	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	29	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	13	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	21	-	-	-	4	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	3	-	33	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	7	-	2	2	175	-	1	-	10	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	1	3	-	2	1	32	-	-	-	7	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	6	-	-	-	3	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	3	-	1	1	14	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	3	-	11	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	3	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	2	27	-	-	-	7	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	1	4	1	4	-	12	-	-	-	6	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年32週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	10	-	1	-	-	-	213	-	10	-	15	-	-	-	-	8	463
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
青森県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	46	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	13
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	8	-	-	-	5	-	-	-	-	1	17
東京都	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	74
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	17
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
大阪府	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	88
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	4	-	-	-	-	1	27
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	4
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	39
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年32週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	3	52	2	16	-	-	-	-	-	-	-	-	96	-	9	1	110	
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	9	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
秋田県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
山形県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	3
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	2
千葉県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	3
東京都	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	39	-	-	-	-	7
神奈川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	2
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
岐阜県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
大阪府	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	2
兵庫県	-	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	4
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2
佐賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	1	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年32週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	18	0.00	924	0.31	1123	0.38	4745	1.60	2361	0.80	8101	2.74	483	0.16	2397	0.81	72	0.02
北海道	-	-	7	0.05	57	0.39	148	1.02	133	0.92	560	3.86	50	0.34	110	0.76	1	0.01
青森県	-	-	7	0.17	6	0.15	24	0.59	54	1.32	41	1.00	4	0.10	20	0.49	-	-
岩手県	-	-	1	0.03	6	0.16	43	1.13	27	0.71	24	0.63	8	0.21	23	0.61	1	0.03
宮城県	-	-	8	0.14	17	0.29	129	2.19	57	0.97	78	1.32	20	0.34	74	1.25	2	0.03
秋田県	-	-	7	0.20	17	0.49	70	2.00	23	0.66	35	1.00	1	0.03	31	0.89	1	0.03
山形県	-	-	5	0.17	15	0.52	67	2.31	20	0.69	220	7.59	11	0.38	29	1.00	1	0.03
福島県	-	-	7	0.15	8	0.17	54	1.13	48	1.00	103	2.15	10	0.21	44	0.92	1	0.02
茨城県	1	0.01	4	0.06	20	0.28	104	1.44	39	0.54	146	2.03	31	0.43	38	0.53	4	0.06
栃木県	-	-	7	0.16	11	0.24	45	1.00	29	0.64	147	3.27	2	0.04	38	0.84	1	0.02
群馬県	-	-	2	0.03	55	0.93	76	1.29	64	1.08	127	2.15	4	0.07	47	0.80	-	-
埼玉県	-	-	39	0.27	71	0.49	232	1.59	99	0.68	496	3.40	16	0.11	107	0.73	1	0.01
千葉県	-	-	32	0.27	38	0.32	136	1.13	89	0.74	236	1.97	33	0.28	90	0.75	1	0.01
東京都	-	-	21	0.15	17	0.12	175	1.23	58	0.41	304	2.14	24	0.17	50	0.35	2	0.01
神奈川県	-	-	14	0.07	32	0.16	197	0.98	130	0.65	471	2.34	52	0.26	156	0.78	4	0.02
新潟県	-	-	11	0.18	37	0.62	80	1.33	52	0.87	202	3.37	3	0.05	35	0.58	2	0.03
富山県	-	-	6	0.21	14	0.48	49	1.69	12	0.41	71	2.45	-	-	24	0.83	-	-
石川県	-	-	9	0.31	11	0.38	89	3.07	17	0.59	61	2.10	4	0.14	28	0.97	1	0.03
福井県	-	-	3	0.14	12	0.55	104	4.73	8	0.36	45	2.05	2	0.09	25	1.14	-	-
山梨県	-	-	3	0.12	1	0.04	25	1.00	7	0.28	9	0.36	1	0.04	8	0.32	-	-
長野県	-	-	26	0.50	17	0.33	89	1.71	72	1.38	232	4.46	12	0.23	44	0.85	-	-
岐阜県	-	-	10	0.19	11	0.21	31	0.58	65	1.23	30	0.57	1	0.02	36	0.68	2	0.04
静岡県	-	-	78	0.91	34	0.40	195	2.27	67	0.78	375	4.36	13	0.15	84	0.98	1	0.01
愛知県	-	-	23	0.13	94	0.52	242	1.33	152	0.84	401	2.20	59	0.32	151	0.83	5	0.03
三重県	-	-	20	0.44	26	0.58	145	3.22	77	1.71	170	3.78	1	0.02	56	1.24	-	-
滋賀県	-	-	6	0.19	20	0.65	33	1.06	20	0.65	62	2.00	1	0.03	22	0.71	-	-
京都府	4	0.03	19	0.25	8	0.11	145	1.91	48	0.63	289	3.80	3	0.04	54	0.71	-	-
大阪府	1	0.00	41	0.21	57	0.30	197	1.03	109	0.57	283	1.47	6	0.03	113	0.59	2	0.01
兵庫県	-	-	74	0.58	30	0.24	254	2.00	141	1.11	674	5.31	11	0.09	118	0.93	6	0.05
奈良県	-	-	19	0.54	11	0.31	39	1.11	21	0.60	120	3.43	1	0.03	30	0.86	1	0.03
和歌山県	-	-	66	2.28	6	0.21	42	1.45	34	1.17	101	3.48	2	0.07	31	1.07	-	-
鳥取県	-	-	3	0.16	36	1.89	66	3.47	18	0.95	109	5.74	2	0.11	36	1.89	-	-
島根県	-	-	-	-	4	0.17	45	1.96	12	0.52	53	2.30	2	0.09	12	0.52	1	0.04
岡山県	-	-	53	0.98	24	0.44	84	1.56	37	0.69	133	2.46	3	0.06	31	0.57	5	0.09
広島県	-	-	22	0.30	16	0.22	81	1.11	31	0.42	142	1.95	8	0.11	56	0.77	3	0.04
山口県	-	-	8	0.16	42	0.86	104	2.12	56	1.14	234	4.78	13	0.27	56	1.14	1	0.02
徳島県	-	-	20	0.87	5	0.22	32	1.39	23	1.00	70	3.04	2	0.09	23	1.00	2	0.09
香川県	-	-	70	2.19	10	0.31	33	1.03	17	0.53	169	5.28	7	0.22	30	0.94	-	-
愛媛県	-	-	68	1.74	33	0.85	133	3.41	55	1.41	98	2.51	1	0.03	38	0.97	-	-
高知県	-	-	10	0.32	15	0.48	31	1.00	16	0.52	86	2.77	-	-	25	0.81	2	0.06
福岡県	-	-	21	0.27	46	0.58	250	3.16	62	0.78	176	2.23	19	0.24	64	0.81	4	0.05
佐賀県	-	-	-	-	10	0.43	20	0.87	24	1.04	37	1.61	5	0.22	43	1.87	1	0.04
長崎県	-	-	-	-	6	0.14	63	1.43	26	0.59	113	2.57	4	0.09	30	0.68	-	-
熊本県	-	-	10	0.20	15	0.31	65	1.33	68	1.39	67	1.37	7	0.14	55	1.12	-	-
大分県	-	-	30	0.83	20	0.56	121	3.36	58	1.61	213	5.92	12	0.33	37	1.03	2	0.06
宮崎県	-	-	23	0.62	30	0.81	176	4.76	40	1.08	137	3.70	4	0.11	60	1.62	2	0.05
鹿児島県	12	0.12	5	0.08	34	0.57	166	2.77	32	0.53	125	2.08	3	0.05	60	1.00	8	0.13
沖縄県	-	-	6	0.18	18	0.53	16	0.47	14	0.41	26	0.76	5	0.15	25	0.74	1	0.03

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年32週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	38	0.01	6802	2.30	460	0.16	2476	0.84	23	0.04	839	1.36	2	0.00	2	0.00	84	0.18
北海道	-	-	377	2.60	11	0.08	132	0.91	1	0.03	28	0.97	-	-	-	-	6	0.26
青森県	1	0.02	112	2.73	1	0.02	53	1.29	-	-	8	0.73	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	104	2.74	-	-	22	0.58	-	-	8	0.67	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	333	5.64	8	0.14	10	0.17	-	-	6	0.55	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	168	4.80	1	0.03	19	0.54	-	-	3	0.43	-	-	-	-	4	0.50
山形県	-	-	87	3.00	-	-	12	0.41	-	-	14	1.75	-	-	-	-	1	0.11
福島県	2	0.04	300	6.25	-	-	16	0.33	-	-	25	2.08	-	-	-	-	1	0.14
茨城県	-	-	170	2.36	1	0.01	43	0.60	1	0.06	41	2.56	-	-	-	-	2	0.18
栃木県	-	-	89	1.98	-	-	9	0.20	-	-	6	0.50	-	-	-	-	1	0.17
群馬県	-	-	97	1.64	3	0.05	127	2.15	-	-	16	1.23	-	-	-	-	2	0.20
埼玉県	1	0.01	254	1.74	17	0.12	232	1.59	-	-	54	1.69	-	-	-	-	-	-
千葉県	4	0.03	183	1.52	10	0.08	115	0.96	4	0.14	41	1.41	-	-	-	-	3	0.23
東京都	8	0.06	227	1.60	9	0.06	93	0.65	1	0.07	37	2.64	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	5	0.02	393	1.96	17	0.08	158	0.79	1	0.03	63	1.58	-	-	-	-	6	0.55
新潟県	-	-	360	6.00	3	0.05	43	0.72	-	-	3	0.38	-	-	-	-	1	0.08
富山県	1	0.03	149	5.14	2	0.07	6	0.21	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	63	2.17	1	0.03	8	0.28	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	74	3.36	3	0.14	13	0.59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	2	0.08	38	1.52	-	-	1	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	344	6.62	2	0.04	16	0.31	3	0.30	5	0.50	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	96	1.81	12	0.23	38	0.72	-	-	4	0.33	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	268	3.12	1	0.01	161	1.87	-	-	19	0.90	-	-	-	-	3	0.33
愛知県	-	-	299	1.64	38	0.21	152	0.84	-	-	42	1.20	-	-	-	-	3	0.23
三重県	-	-	193	4.29	6	0.13	59	1.31	1	0.08	11	0.92	-	-	-	-	10	1.11
滋賀県	2	0.06	32	1.03	8	0.26	8	0.26	-	-	5	0.71	-	-	-	-	1	0.17
京都府	-	-	113	1.49	4	0.05	34	0.45	-	-	19	1.06	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	208	1.08	90	0.47	102	0.53	-	-	37	0.71	-	-	-	-	2	0.25
兵庫県	3	0.02	349	2.75	9	0.07	86	0.68	-	-	47	1.34	1	0.07	-	-	3	0.21
奈良県	1	0.03	29	0.83	22	0.63	14	0.40	-	-	19	2.11	-	-	-	-	4	0.67
和歌山県	-	-	18	0.62	6	0.21	5	0.17	1	0.25	7	1.75	-	-	-	-	5	0.45
鳥取県	-	-	41	2.16	1	0.05	32	1.68	-	-	1	0.33	-	-	-	-	2	0.40
島根県	-	-	43	1.87	-	-	31	1.35	-	-	6	2.00	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.04	98	1.81	33	0.61	23	0.43	-	-	25	2.08	-	-	-	-	-	-
広島県	1	0.01	129	1.77	24	0.33	47	0.64	2	0.10	16	0.80	-	-	1	0.05	3	0.14
山口県	-	-	93	1.90	1	0.02	110	2.24	-	-	18	2.00	-	-	-	-	1	0.13
徳島県	-	-	26	1.13	4	0.17	4	0.17	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
香川県	1	0.03	66	2.06	9	0.28	38	1.19	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	88	2.26	15	0.38	17	0.44	-	-	13	1.86	-	-	-	-	2	0.33
高知県	-	-	79	2.55	24	0.77	27	0.87	-	-	15	5.00	-	-	-	-	1	0.14
福岡県	-	-	91	1.15	23	0.29	90	1.14	-	-	66	3.67	-	-	-	-	1	0.07
佐賀県	-	-	90	3.91	3	0.13	45	1.96	-	-	9	2.25	-	-	-	-	3	0.50
長崎県	-	-	42	0.95	-	-	16	0.36	7	0.88	22	2.75	1	0.08	-	-	-	-
熊本県	-	-	156	3.18	-	-	117	2.39	1	0.11	16	1.78	-	-	-	-	6	0.40
大分県	-	-	67	1.86	34	0.94	16	0.44	-	-	8	1.60	-	-	-	-	-	-
宮崎県	2	0.05	88	2.38	2	0.05	44	1.19	-	-	11	2.75	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	-	-	70	1.17	-	-	25	0.42	-	-	2	0.40	-	-	1	0.08	-	-
沖縄県	-	-	8	0.24	2	0.06	7	0.21	-	-	34	3.40	-	-	-	-	3	0.43

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成12年32週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	37	0.08	4	0.01	5	0.01
北海道	6	0.26	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.05	-	-	-	-
宮城県	1	0.08	-	-	-	-
秋田県	2	0.25	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	2	0.29	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	1	0.10	-	-
埼玉県	-	-	-	-	1	0.11
千葉県	1	0.08	1	0.08	-	-
東京都	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	1	0.09	-	-	2	0.18
新潟県	2	0.15	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	1	0.20	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	1	0.09	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	3	0.23	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	1	0.17	1	0.17	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-
兵庫県	2	0.14	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	1	0.20	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.40	-	-	-	-
広島県	3	0.14	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.17	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	1	0.08	-	-	-	-
熊本県	3	0.20	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	2	0.29	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-

感染症週報 第2巻、第32号 平成12年8月25日発行
発行：国立感染症研究所

厚生省保健医療局結核感染症課
厚生省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html
<国立感染症研究所 感染症情報センター>
http://www.mhw.go.jp/
<厚生省>
http://www.narita-airport.or.jp/quarantine/
<成田空港検疫所>
http://www.forth.go.jp/
<旅行者のための海外感染症情報>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上に訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。